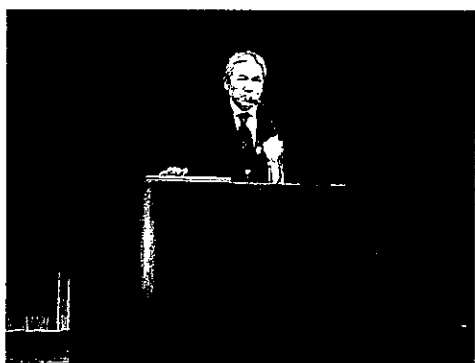


日本薬局管理学会年會

西村氏「次回診療報酬改定は若干のプラスか」

日本薬局管理学会(石塚英夫会長)は6月17日、ニッショーホールにおいて第2回日本薬局管理学会年會を開催、特別講演「医療経済学から見た医療制度と医薬分業の在り方」、教育講演「メタボリックシンドロームの成因と食の薬理学」、一般講演10題が行われた。

石塚会長は開会挨拶で「薬局は分化してきており、その業態も様々になってきた。医薬分業も現実となりつつある。医療の在宅へのシフトの可能性等、薬局・薬剤師の果たすべき職能が問わ



石塚会長

れている。調剤、薬歴管理、服薬指導、経営管理まで広く捉え、薬剤師の質的向上を図り、医薬分業の定着と継続により地域医療と国民の健康へ貢献することが研究会の目的」と述べた。

来賓として訪れていた伊賀立二日本病院薬剤師会会長は「改正医療法の施行など、薬局における薬剤師の質向上は急務。そういった中でこの研究会開催を大いに評価している。全国的規模の教育研修・情報交換の場として期待している」、また藤井基之参議院議員は「国民は平均すると年に5回処方せんを持って薬局へ行く。薬局は医療提供施設と位置づけられたことから、今後医療の担い手として、薬剤師や薬局の役割はますます重要になる」と挨拶で述べた。

一般講演では次の通り10題が、午前午後に分けて行われた。

第1部

- ①アロプリノール錠の後発薬に関する製剤試験(小坂 良氏・榎オオノ)
- ②当薬局における疑義照会の実態―安心・信頼できるかかりつけ薬局を目指して(鳥越貴子氏・谷山会営業薬局)
- ③調剤統合支援システム導入による調

剤過誤対策の検討(三溝 学氏・八王子薬剤センター薬局) ④服薬アドヒアランスの維持に家庭血圧測定が及ぼす影響(田代康壽貴氏・まごころ薬局旭店) ⑤当社利用患者様の健康情報取得方法に関する調査(長崎任弘氏・榎ナカジマ薬局きたみ調剤薬局)

第2部

⑥地域に根ざした薬局をめざして―平野薬局における健康支援事業への取組み・第二報(野崎友香里氏・榎平野) ⑦病院薬剤部門におけるロジスティクス・マネジメントの導入(岩佐昌広氏・東海大学医学部付属八王子病院薬剤科) ⑧望星薬局における薬局マネジメントの実践(中村孝之氏・榎望星薬局) ⑨eラーニング薬剤師生涯研修に期待されているもの―受講感想・受講実績の解析(朝倉正彦氏・特定非常利活動法人医療教育研究所) ⑩薬学教育モデル・コアカリキュラムにおける在宅医療の位置づけ(串田一樹氏・昭和薬科大学)。

教育講演「メタボリックシンドロームの成因と食の薬理学」
岡希太郎氏(東京薬科大学名誉教授)
岡氏はメタボリックシンドロームについて「臓器別のクッシング症と見ることもでき、そういった意味から多臓器不全とも言えるだろう」とし、Q&A形式でユーモアを交え講演した。「体内でのコルチゾールの解毒とリサ

イクルのバランスが崩れると、メタボリックシンドロームになる」ため、コルチゾールに関与する11β-HSD1型と2型へ着目している。また、完全に解明されていないもののコヒーに含まれるカフェイン、クロロゲン酸、カフェール酸、ニコチン酸、揮発性メイラード、ピリジニウム塩などがコルチゾールのバランスに影響を及ぼしている可能性を説明した。

特別講演「医療経済学から見た医療制度と医薬分業のあり方」
西村周三氏(京都大学副学長 教授)

西村氏は医療保障の動向について「地方を含めて700兆円以上の借金がある以上、公的医療費は増えるとは思えない」との見解を示した。その一方で、「経済が成長していく過程で他の職種での給与が上がったら、医療従事者の給与も当然上がる。医療従事者の給与が他と比べて低いという状況は好ましくない。医療費の半分は人件費なのだから次回の診療報酬では若干のプラス改定も考えられる」と述べた。

また薬剤師について「プロフェッショナルであることにこだわるあまり、業務内容を限定しすぎではないか。日常生活に服薬指導を組み込むなどの工夫を考える時期になっている。薬局はこれから大手チェーンへの集中が始まり、多くの薬剤師が雇われの身になるといふ流れだろう」と言及し、